

平成30年度 第2回室蘭市保健福祉推進審議会

日 時：平成31年2月27日（水） 午後6時25分～午後7時20分

場 所：室蘭市役所3階議会第1会議室

出席委員：野尻会長、上田委員、関口委員、廣島委員、山中委員、藤田委員、
政田委員、上野委員、沼田委員、長澤委員、上西委員

欠席委員：三浦委員、岩浅委員、原田委員、澤田委員

事務局：成田保健福祉部長、舛田高齢福祉課長、本野高齢福祉課主幹[地域包括ケア推進]、
今野高齢福祉課主幹、花島高齢福祉課主幹、成田高齢福祉課福祉総務係長、立花
高齢福祉課主査[福祉総務]、木村障害福祉課長、弘瀬生活支援課長、吉田生活支
援課主幹[指導支援]、瀧浪子育て支援課長、佐藤子育て支援課主幹、中澤子育て
支援課主幹[子育て相談]、塩越子育て支援課主幹[子育て相談]、伊賀子育て支援
課主幹[療育]、清水健康推進課長、北野健康推進課主幹、山口健康推進課主幹

傍聴者：0人

1 会議次第

【審議事項】

(1) 室蘭市自殺対策計画（案）

【報告事項】

(1) 平成31年度保健福祉部主な施策の概要

【その他】

2 議事の概要記録

<開会>

委員15名のうち11名の出席で、室蘭市保健福祉推進審議会条例第6条第2項の規定により「半数以上の出席」があることから、会議が成立していることを確認。

成田保健福祉部長より挨拶。

【審議事項】

室蘭市自殺対策（案）について

事務局説明

資料「室蘭市自殺対策計画（案）」、「室蘭市自殺対策計画（素案）」へのパブリックコメントの実施結果について」及び「室蘭市における自殺の現状について」に基づき、計画（案）、パブリックコメントの実施結果及び前回の審議会で質問があった自殺の時刻等について説明

会 長：ただ今の説明について意見等ございませんか。

委 員：計画の策定検討委員会について、この自殺対策計画（案）をベースに検討したの

か、それとも国、国の関係機関が調査したもの、北海道の第3次北海道自殺対策行動計画をベースとした資料を提示しながら検討したのか確認したい。

事務局：策定検討委員会の中では、国、北海道の自殺対策に関する動きや現状、室蘭市の現状についてデータを示しながら検討していただいた。

委員：この計画や取組みについては、どのように市民に提示していくのか、ホームページだけで公開するのか。

事務局：計画については、ホームページでの公開、関係機関に計画の冊子の配布等を行っていく。また、普及・啓発、研修等の具体的な取組みの中で、こういった計画に沿って取り組んでいくということを説明していこうと考えている。

委員：室蘭市のデータについて件数や年齢等分析しているが、国と道がデータを非常にきめ細やかに分析しており、年代別に対する取組みも知らせながら対応してしていくことが必要なのではないか。

気になるのは、10代後半から30代にかけて死亡原因の1番が自殺であること、特に20代においては心停止の半分近くが自殺であると、こういうことも市民に知らせながら、民間の企業と進めていくことが必要なのかなと思う。

月別でいうと3月から5月に自殺が多い、要は季節の変わり目が自殺が多いという報告もあり、そういったことを市民に知らせていくことが非常に大事だと思うが、そこら辺についてどのようにしていくのか。

事務局：自殺に関する現状については、国からも地域における自殺の基礎資料ということで提示されているものもあるので、普及・啓発の取組みやゲートキーパー研修を行うときに、最新のデータを示しこういった傾向があるということを伝えながら取り組んでいきたい。

委員：年代別の原因について具体的な進め方、こういった形でPRしていくかちょっと疑問を感じている。国の予算が非常に高い中で市の予算が18万円というのはいかほどのものかと思う。というのは、ここで一人が自殺することによってどれだけのお金が財政上影響があるのか、人を生かすことは大切であるが、そういうことを考えていくと、もっと市民全体で考えていかなければこの問題は解決できないのかと思う。

もう一点気になるのが自殺の定義についてで、日本は24時間以内でないと自殺とみなさない、そういう定義であるが、WHOではこの方は自殺だなという心停止の中で、半分近くは自殺とみなされている。こういうことを考えると、自殺件数的には少ないけれども、今数字に表れていない方が3倍から10倍いるのではないかとしている研究者もいるので、数字に表れていない方が相当いるのかなと思っている。

そのような中で、市民や民生委員等いろいろな方々が見守り等の取組みをしているが、さらにプラスしてどういう方に発信していくのが大事なのではと思う。

事務局：確かにいろいろ悩みを持っていたり、10代から30代、家庭、企業、周囲でのケアが常に必要であるということは承知しているが、おかしいな、とか思われる状況がないよう各企業へ周知していかなければならないと思っている。また、自

殺率でいうと非常に高齢者の自殺率が高いということもあり、民生委員さんとかにもこれからもご協力を得なければならないということも感じている。

市民にどの程度意識を持っていただけるか、自殺計画というものをきちんと市民に普及させることが大事であると思っており、広く市民に対して今後とも周知していきたいと考えている。

会 長：今の委員の貴重な発言を、市としても参考にし、基礎的なデータを盛り込みながら現状をしっかりと押さえて、市民に対しいろんな形で広報していただくよう努力していただきたい。

他にないようですので、計画について当審議会として了承します。

【報告事項】

平成31年度保健福祉部主な施策の概要について

事務局説明

資料「主な施策」及び「子育て応援プラン事業一覧」に基づき、平成31年度保健福祉部主な施策について説明

会 長：ただ今の説明について意見等ございませんか。

委 員：先ほどの説明の中で、点字・声の広報むろらん委託58万円というのがあり、予算としては問題ないのだが、その中でやっている方はボランティアでパソコンも自前のものを使っている。しかしながら、点字プリンターについて、現在障害者福祉総合センターにそのプリンターがあり、今も使ってはいるのだが、使い勝手が悪く、みんなでお金を出し合って買おうかという考えまで出ているが、しっかり頑張っている方々がいるので、声を聞いて、相談しながら買ってあげることはいかないのか。

事務局：点字プリンターの話については把握している。ソフトの対応が、それぞれの機種によっても違い、また現在のはだいぶ古くなっており、その機種の使い勝手や合う合わないというのがあると聞いている。新しい機種が出るたびに購入することは難しいが、実際に使っている団体と今後調整やもっと詳しい話をしながら対応していきたいと考えている。

委 員：子育て応援プランの中に子どもの医療費助成というのがあるが、具体的に説明してほしい。子育てしている親にとって病院代の負担は大きい。若い人は収入が少ない中で、病院にお金が出せない世帯が多くなっていると思う。そのような中で、他の街は小学校終了まで、あるいは中学校終了まで、中には高校までという街もある位助成をしている。その中で室蘭がどのような状況にあるのか、答えてほしい。

事務局：医療助成については、平成30年4月から新たに非課税世帯に対して医療費をこれまで小学校就学前までの医療助成があったが、就学後についても3割負担から1割負担へ軽減するという取組みが子育て応援プランの中で新たに開始している

ところであり、平成31年度についても取組みを継続するという内容となっている。

会 長：高齢者の移動支援事業としての路線バス、高齢者割引バスというのがあるが、これについて現状や今後の見通しについて伺いたい。

事務局：高齢者の割引バスについて、道南バスの高齢者の方を対象とした室蘭・登別・伊達の路線バスの定期券みたいなものである「ふれあいバス事業」に助成をしているが、一部のバスを頻繁に利用している方が補助対象となっていることから、広く高齢者の移動支援となるような制度に見直すべく検討をし、バス事業者と相談しているところであり、高齢者の新たな移動支援事業を将来的に実現したいと考えている。

【その他】

会 長：事務局からその他何かありますか。

事務局：第7期介護保険事業計画に基づき、平成31年度地域密着型事業所について、認知症対応型共同生活介護、いわゆるグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所の2種類のサービスについて、グループホーム1か所、定員18名、小規模多機能型自宅介護事業所1か所、定員25名で公募いたします。対象区域は市内全域とし、平成31年度中に整備し、平成32年度から開設を予定している。公募時期としては、現在調整中だが、平成31年4月から5月ごろを考えている。

会 長：その他ありますか。

それでは、議事を事務局にお返しいたします。

事務局：これもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところ、ご出席いただき、また、熱心にご論議いただきましてありがとうございました。

< 閉 会 >